

令和元年度第 1 回高松市総合教育会議 資料（1）

本市教育の現状と課題

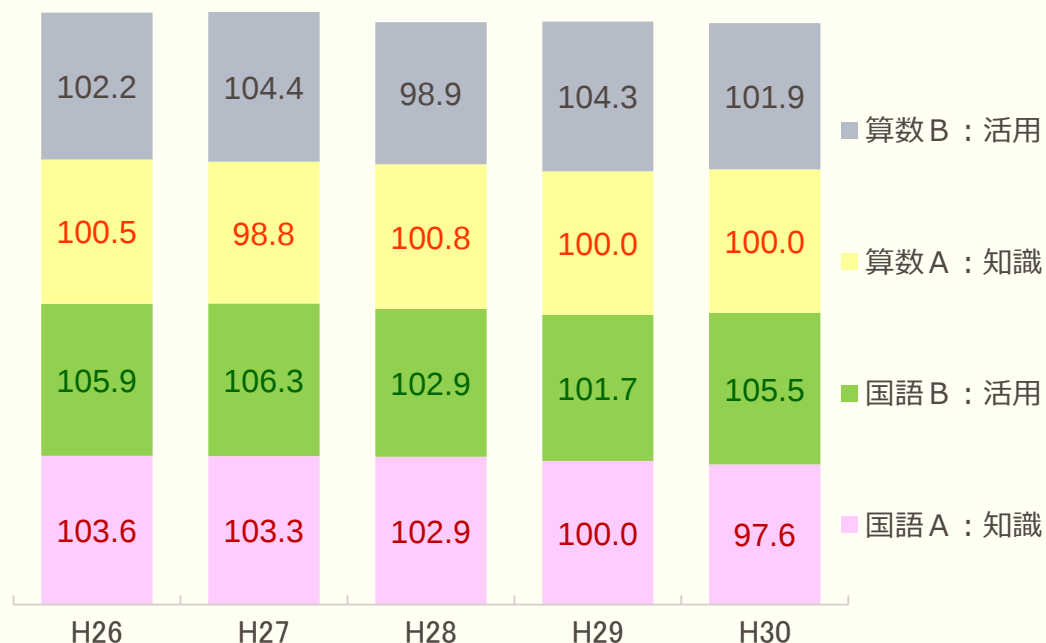
1 子どもの状況

① 学力の状況

平成30年度の本市の小学校6年・中学校3年の平均正答率は、香川県の平均を上回っており、全国平均とほぼ同等若しくは上回っている状況となっています。

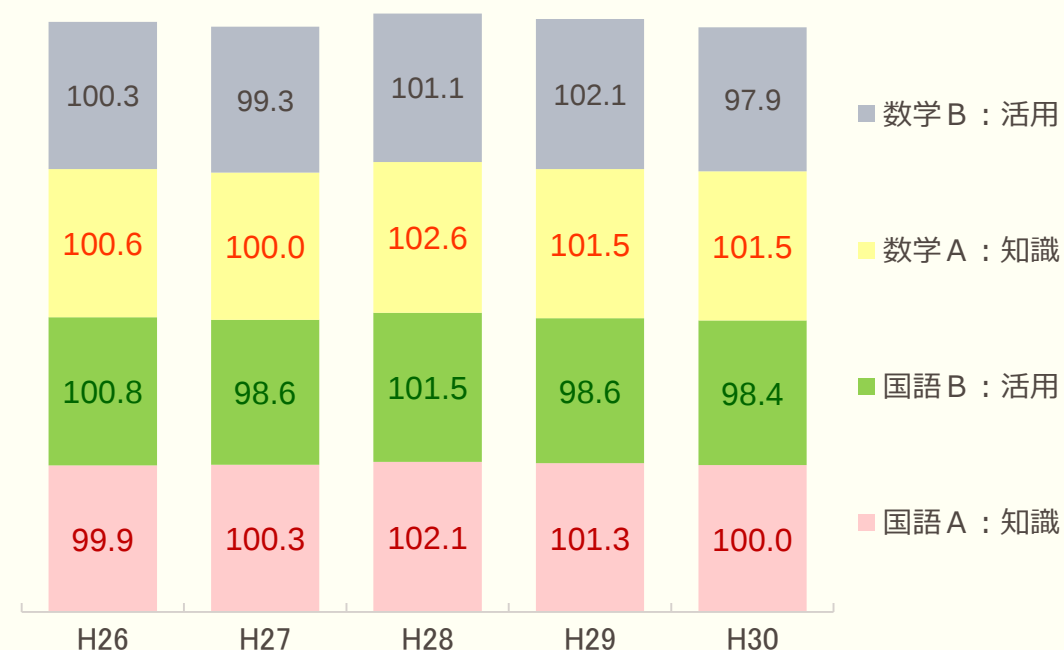
小学校 6 年（香川県）

(全国の平均正答率を100として標準化した数値)



中学校 3 年（香川県）

(全国の平均正答率を100として標準化した数値)

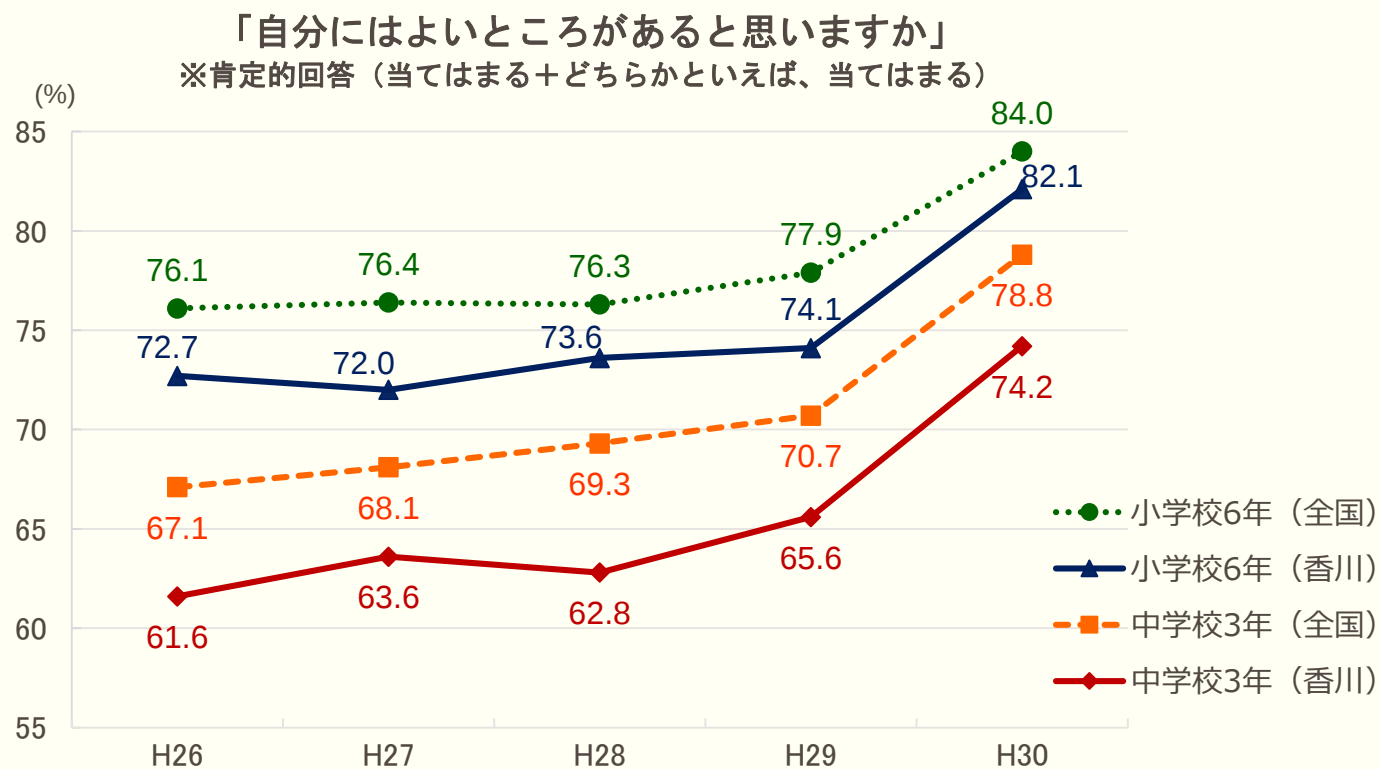


「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）

1 子どもの状況

② 自己肯定感（自尊感情）

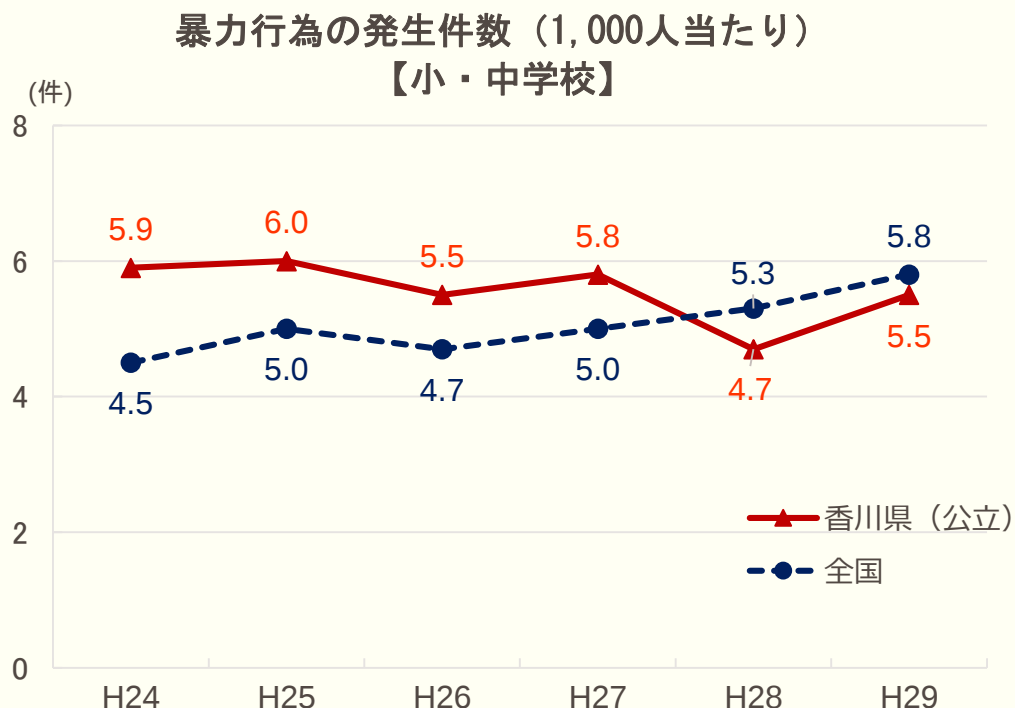
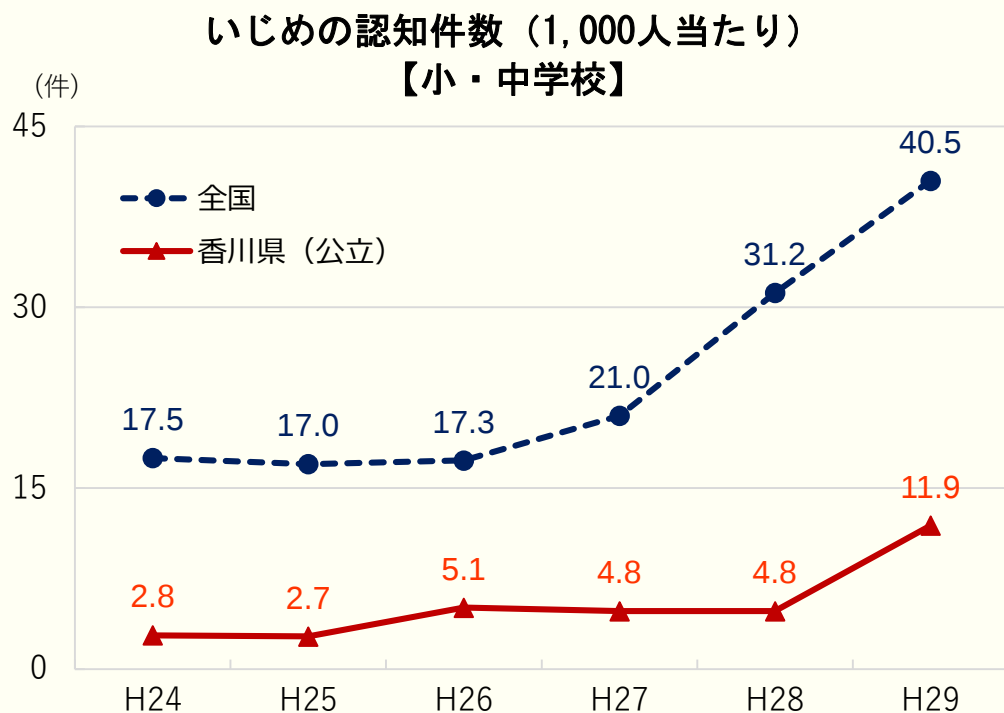
小・中学校ともに、肯定的回答の割合は、上昇傾向にあるものの、全国と比べて、依然として低い状況となっています。



1 子どもの状況

③ いじめ、暴力行為の状況

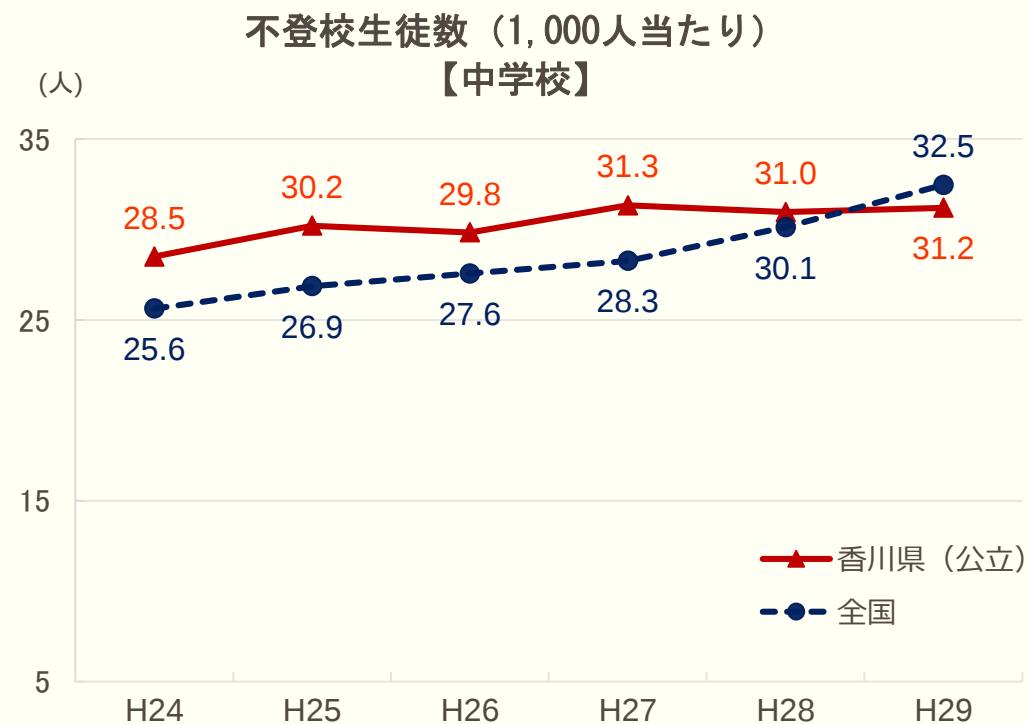
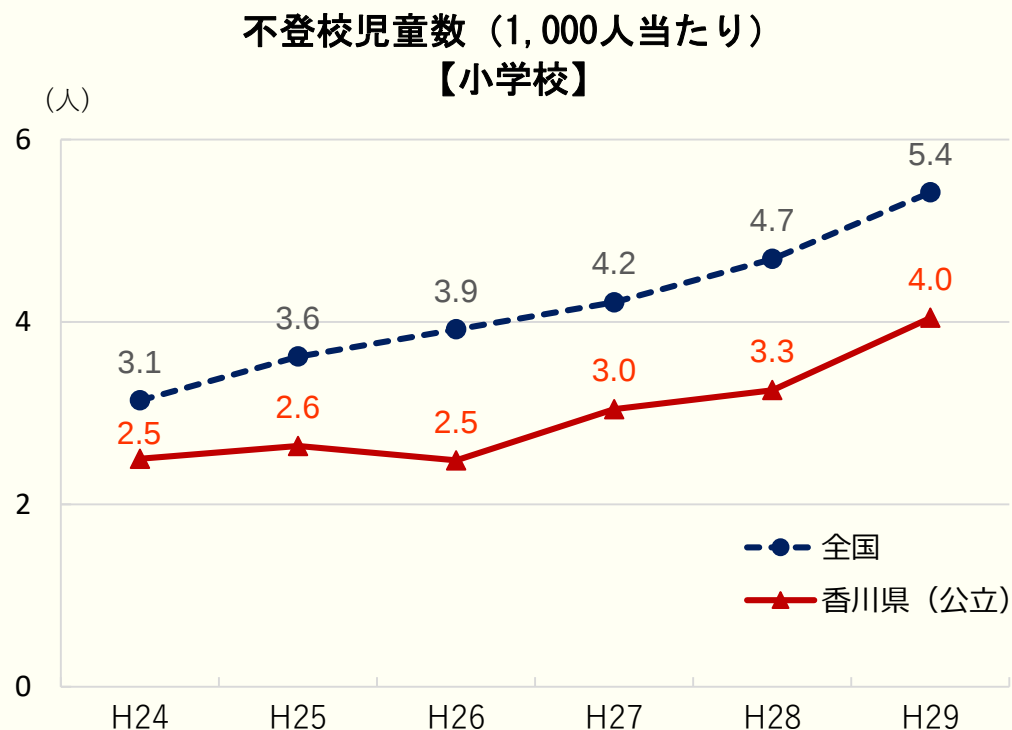
香川県の児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数は、全国より少なくなっています。認知件数は、いじめの定義の解釈の見直しにより、27年度以降、全国的に増加しています。
また、児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、27年度までは全国を上回っていましたが、28年度以降は全国を下回っています。



1 子どもの状況

④ 不登校の状況

香川県の不登校の子どもの割合は、小学校では上昇傾向、中学校では横ばい状態にあります。
本市の不登校児童数（小学校）の割合は、全国より低いものの、29年度には、香川県を上回る状況となっています。

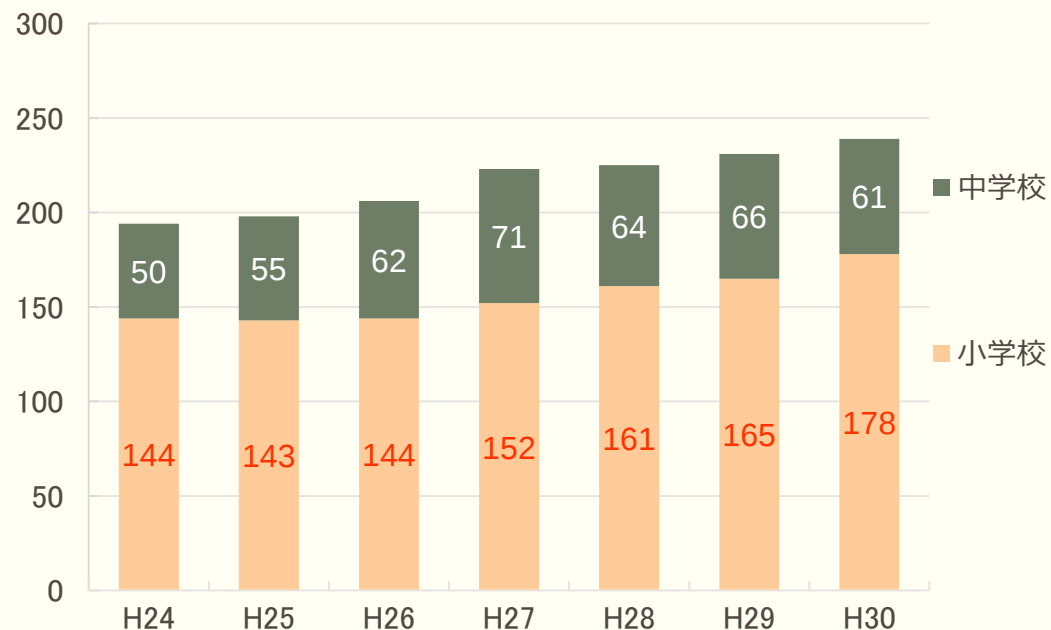


1 子どもの状況

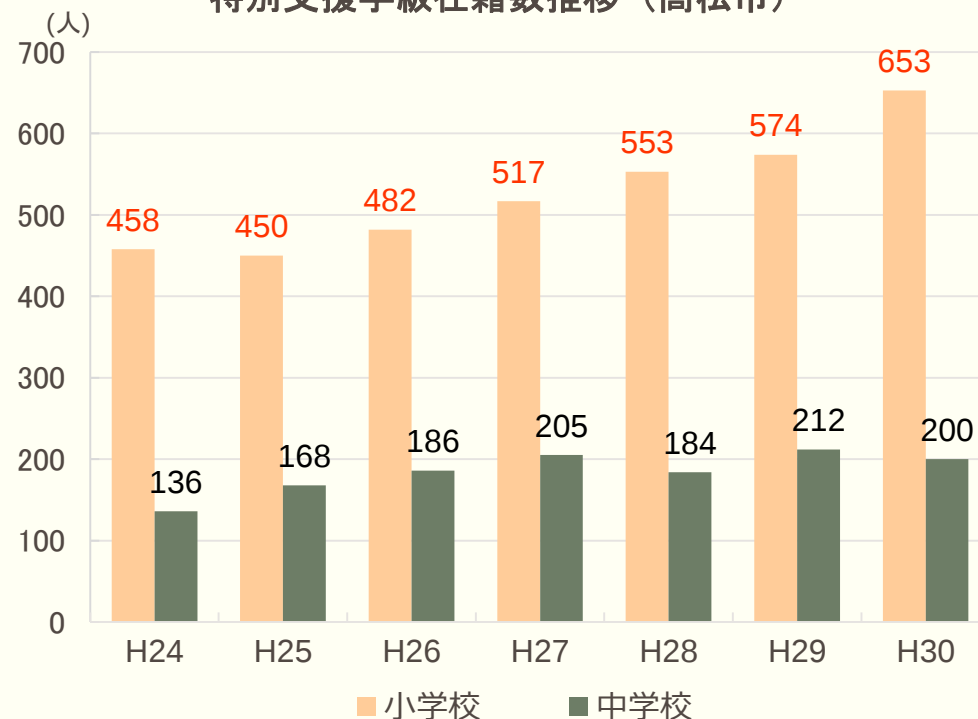
⑤ 特別な支援が必要な児童生徒の状況

本市の特別支援学級数・特別支援学級在籍数は、ともに増加傾向となっており、特に、小学校の増加が顕著となっています。また、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒数の割合も、増加傾向となっています。

特別支援学級数推移（高松市）



特別支援学級在籍数推移（高松市）



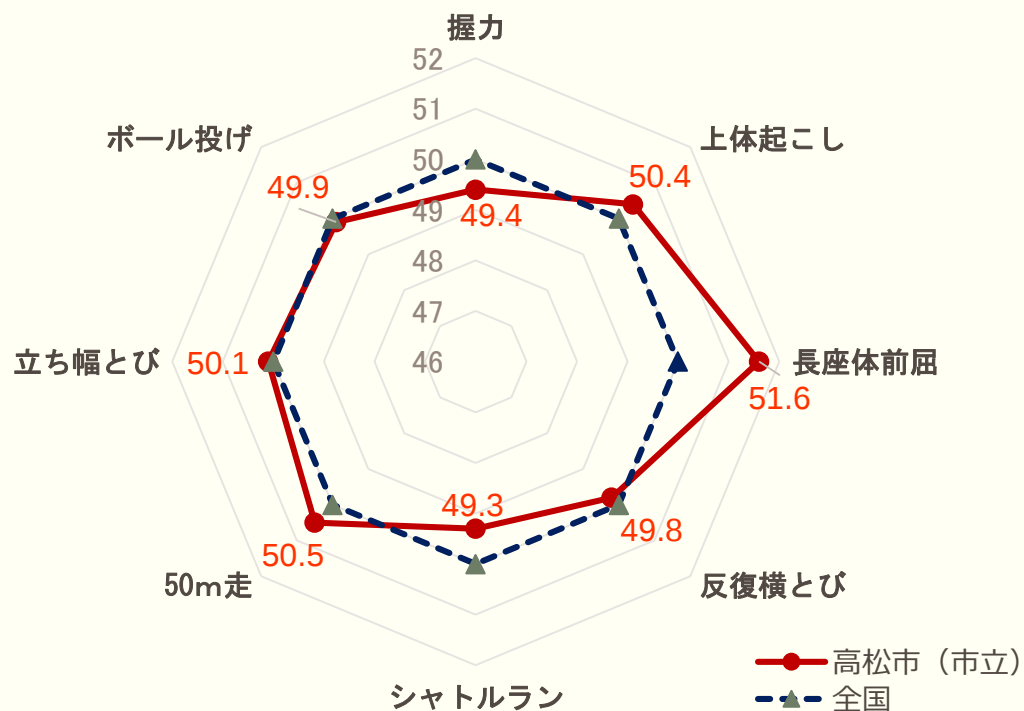
1 子どもの状況

⑥ 体力・運動能力の状況（各種目の全国平均との比較：T得点）

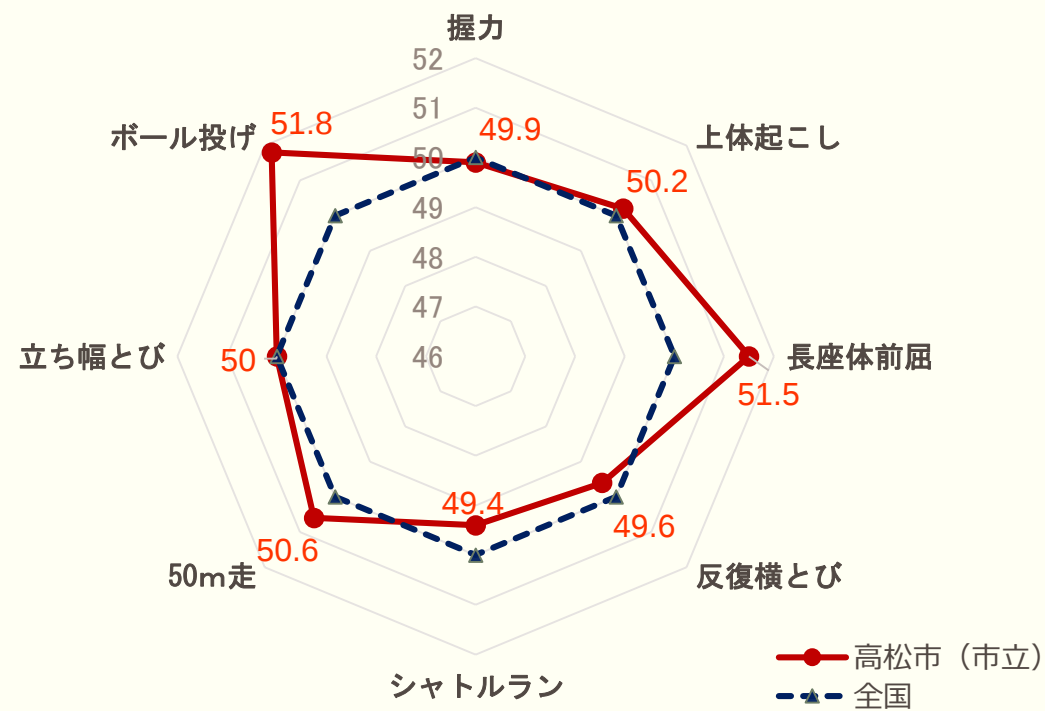
*T得点：全国平均値を50点と換算したときの当該平均値に対する相対的位置を示している。

男女ともに、「握力（筋力）」・「反復横とび（敏捷性）」・「シャトルラン（全身持久力）」が全国平均を下回っています。

小学校5年男子（体力合計50.2）



小学校5年女子（体力合計50.5）



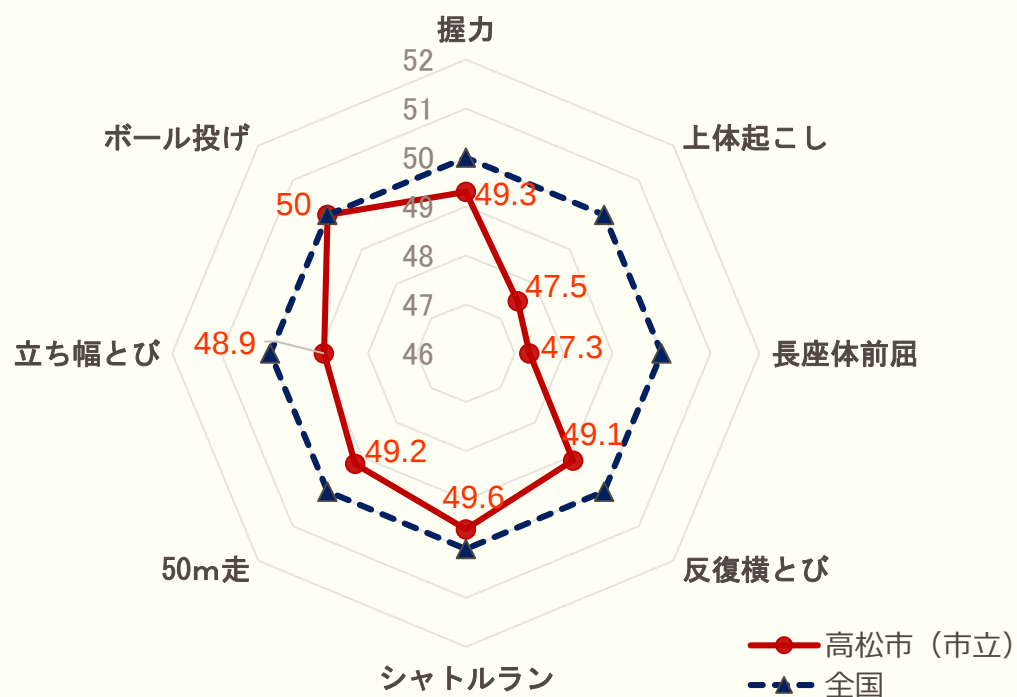
1 子どもの状況

⑥ 体力・運動能力の状況（各種目の全国平均との比較：T得点）

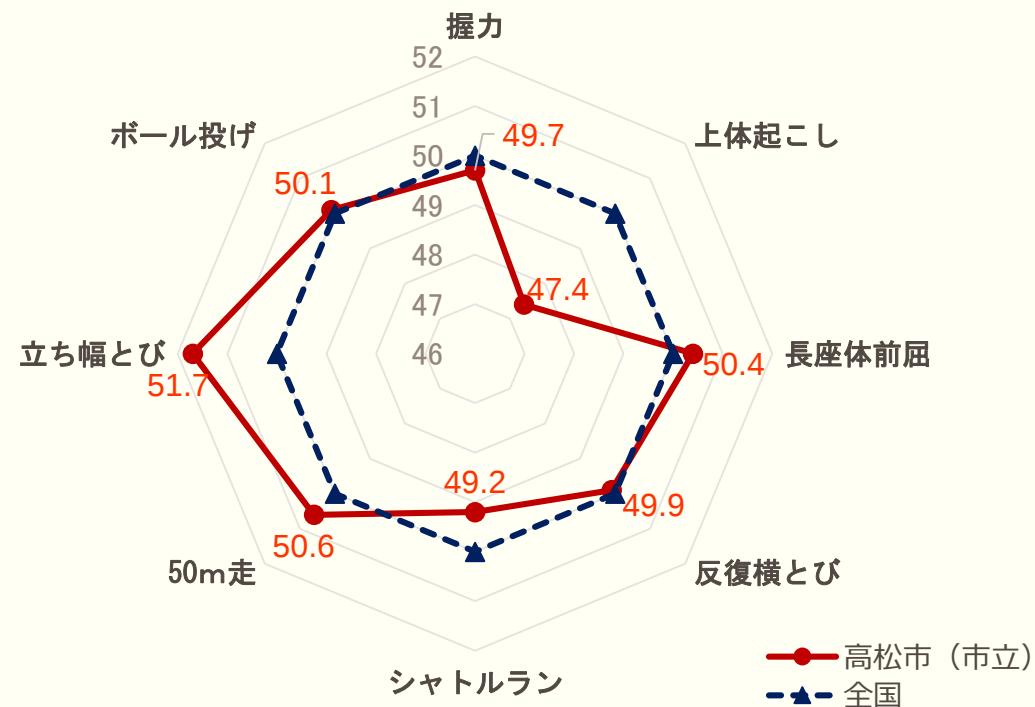
*T得点：全国平均値を50点と換算したときの当該平均値に対する相対的位置を示している。

男子は、全ての種目が全国平均を下回っています。女子は、「握力（筋力）」・「上体起こし（筋持久力）」・「反復横とび（敏捷性）」・「シャトルラン（全身持久力）」が全国平均を下回っています。

中学校2年男子（体力合計48.4）



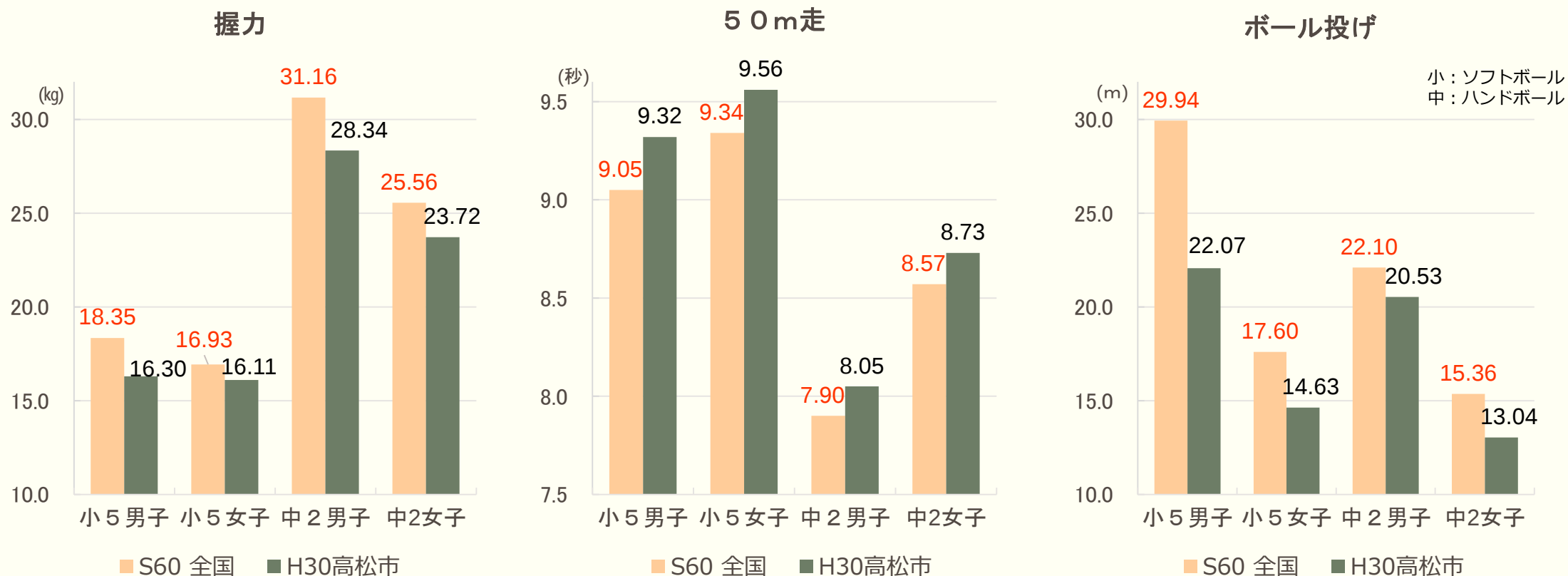
中学校2年女子（体力合計50.2）



1 子どもの状況

⑦ 体力・運動能力の状況（昭和60年度の児童生徒の体力水準（全国）との比較）

体力水準が高かった昭和60年度と比較すると、依然として、低い水準となっています。

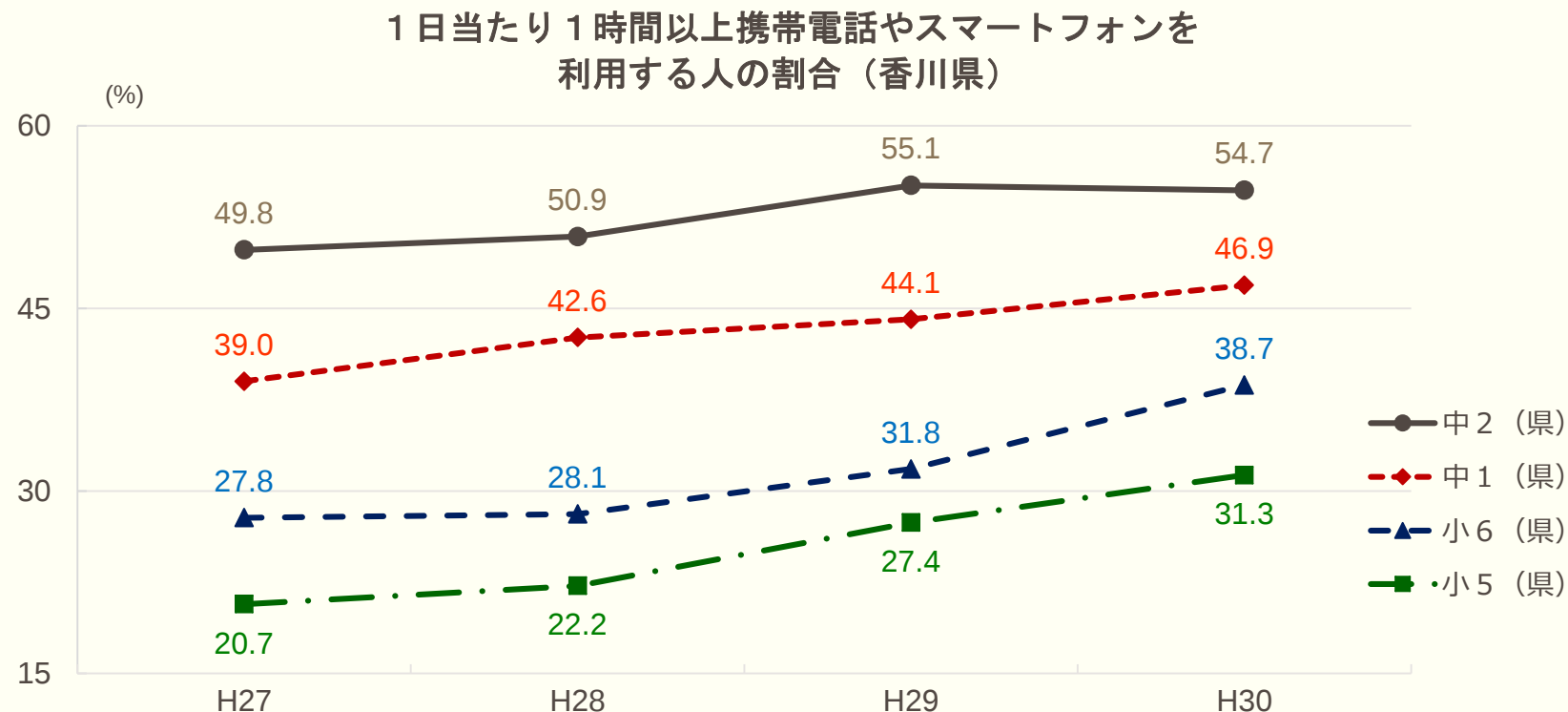


「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

1 子どもの状況

⑧ 生活状況（メディアの利用状況）

「普段、1日あたりにどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の問いに「1時間以上」と回答した人の割合は、学年が上がるにつれて、高くなっており、中学校2年では、半数を超える状況となっています。また、28年度以降、小学校において大きく伸びています。

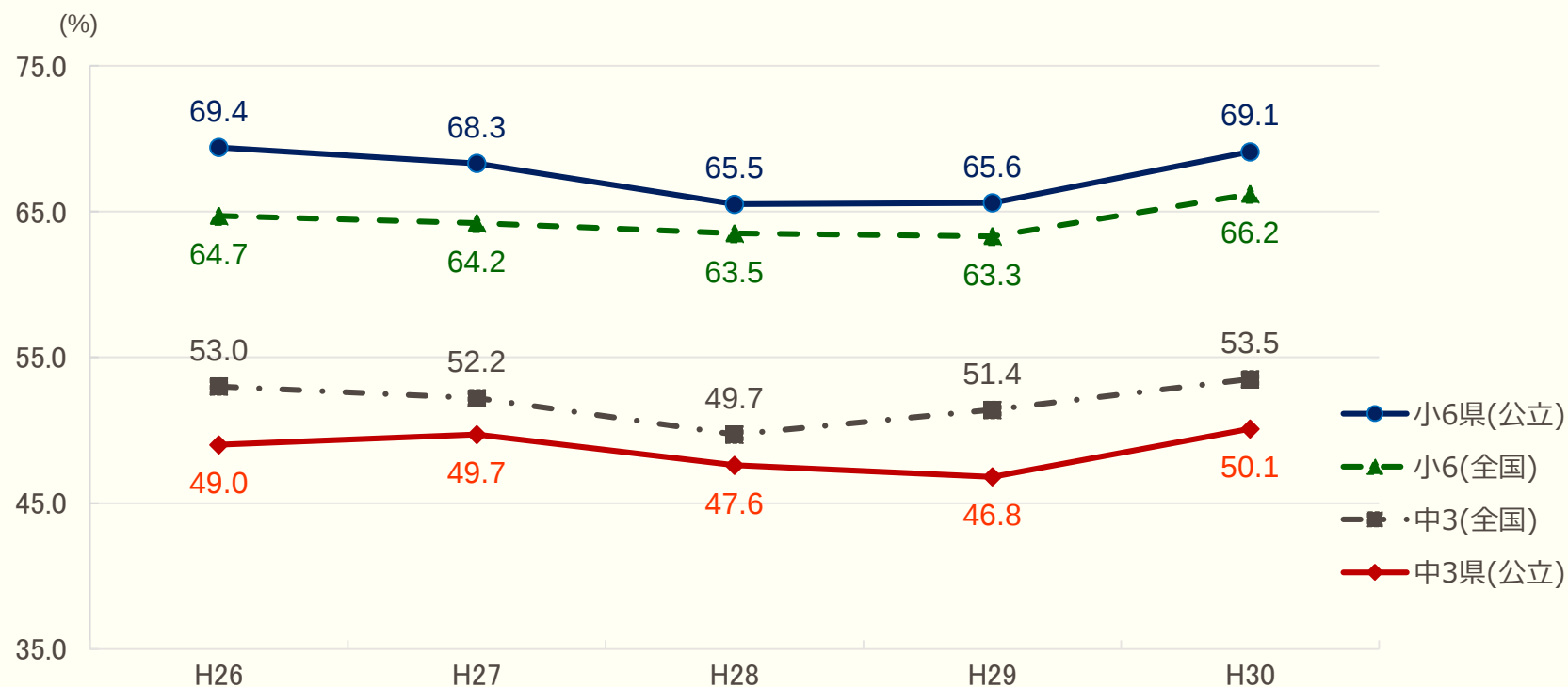


1 子どもの状況

⑨ 読書活動の状況

平日1日の読書量が10分以上の子どもの割合は、全国に比べ、小学校6年では高く、中学校3年では低い状況ですが、30年度は、29年度に比べ、小・中学校ともに高くなっています。

平日1日の読書量が10分以上である子どもの割合

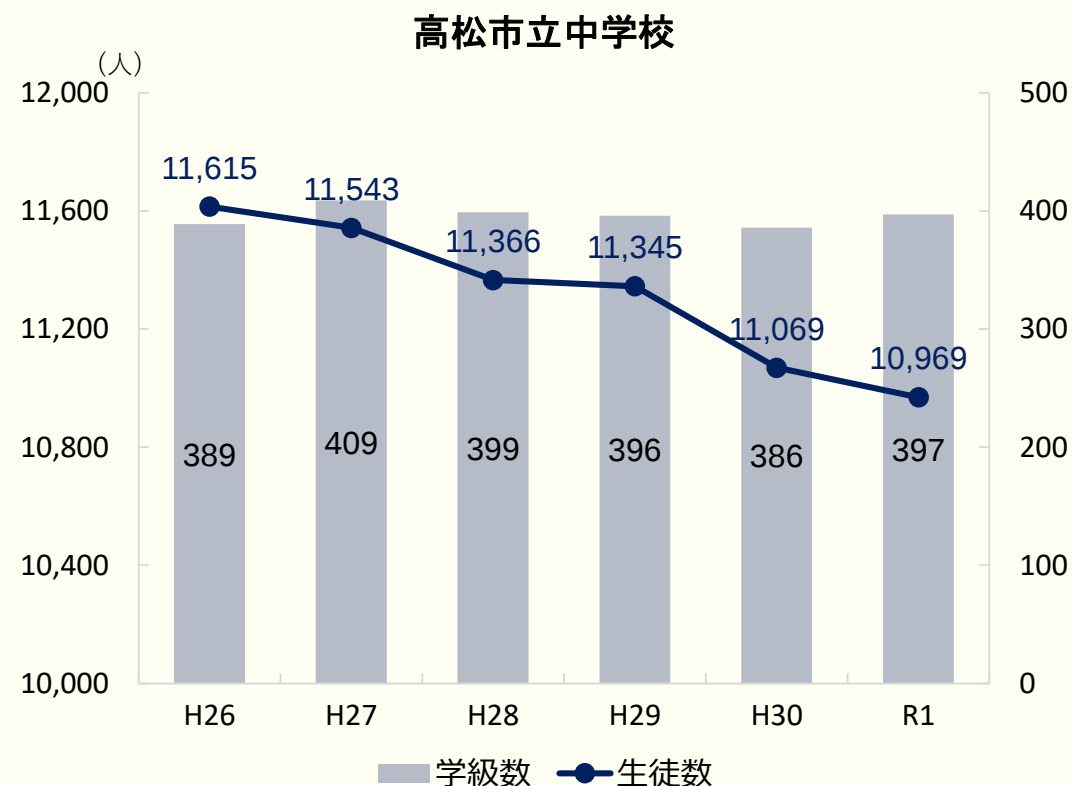
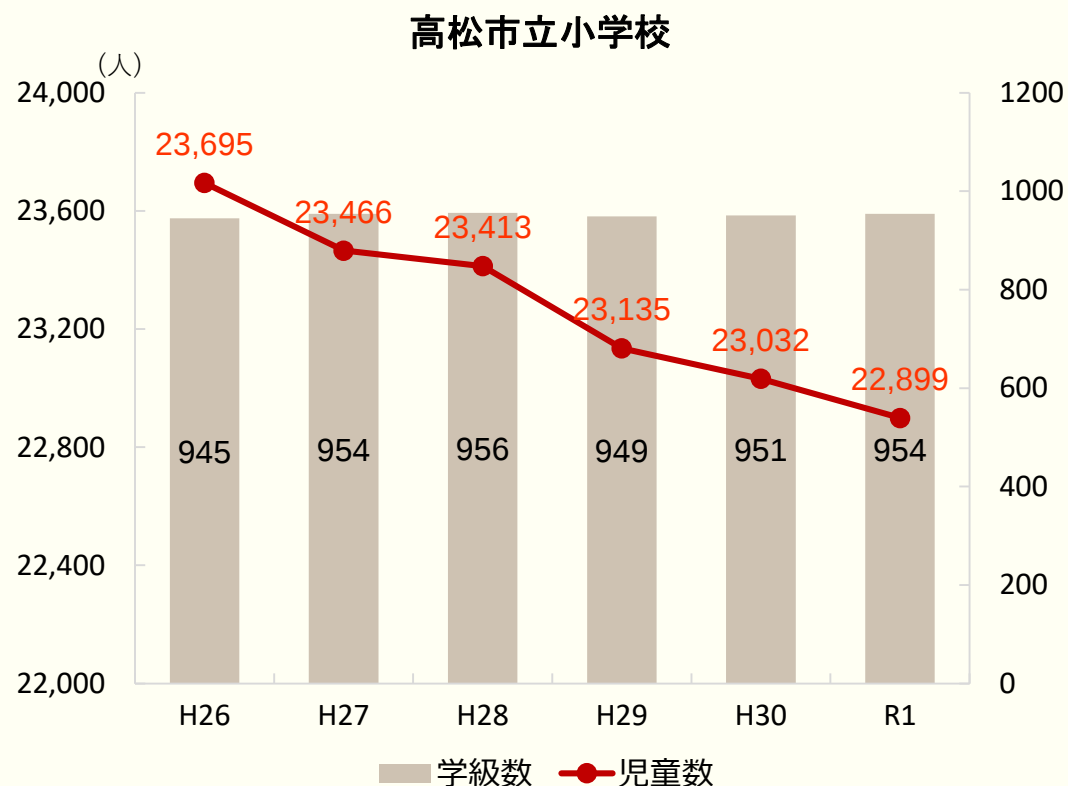


「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

2 学校の状況

① 小・中学校の児童生徒数、学級数

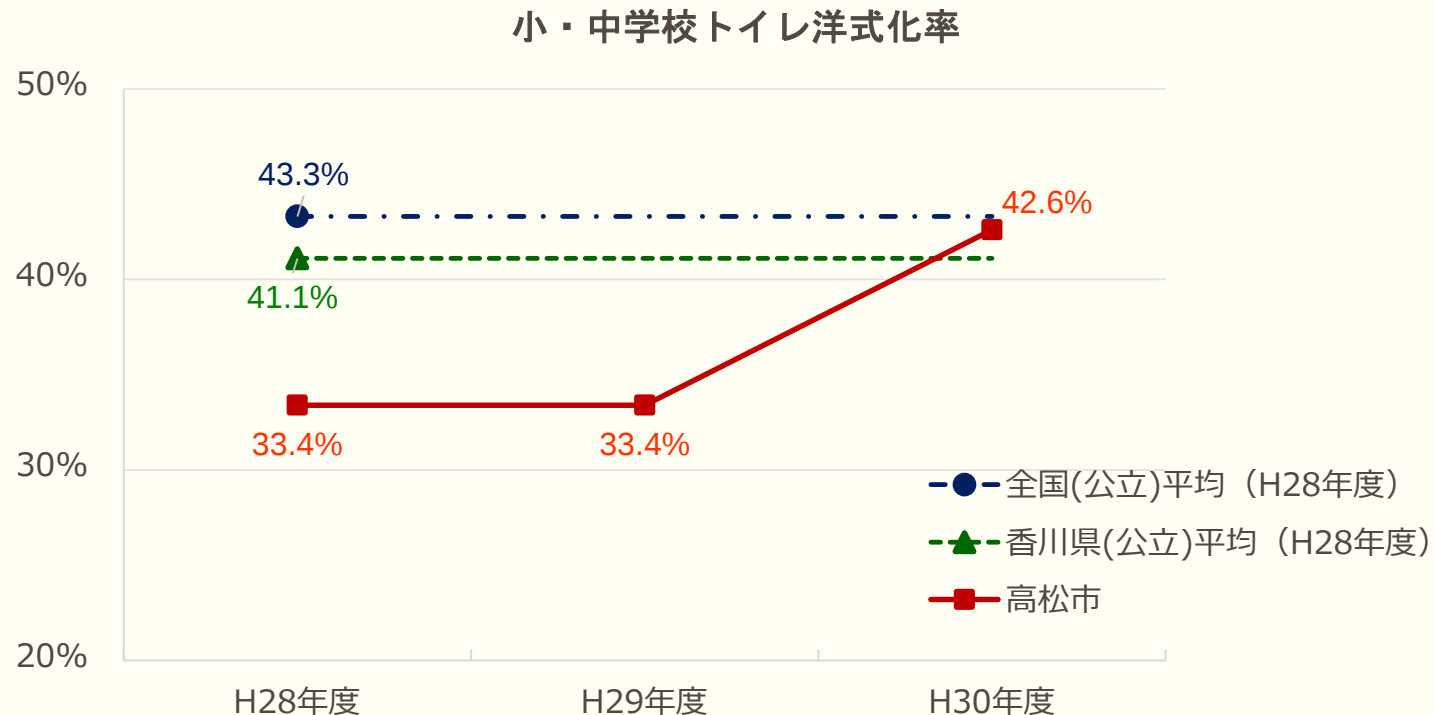
一部の小・中学校では、児童生徒数が増加しているものの、少子化の進展等により、総数は小・中学校とも減少しています。しかしながら、学級数は、少人数編成や特別支援学級の増加により、横ばい状態が続いています。



2 学校の状況

② 小・中学校の施設整備

26年度をもって、小・中学校（新設・改築・休校中の校舎を除く。）の全教室に空調機を設置し、27年度には、全校の耐震化工事が終了しました。一方、施設の多くが1970年代から80年代に整備されており、建築後30年以上を経過した割合は、8割を超えており、老朽化が進んでいる状況です。
また、学校トイレの洋式化の割合は、28年度の全国平均値を下回っています。

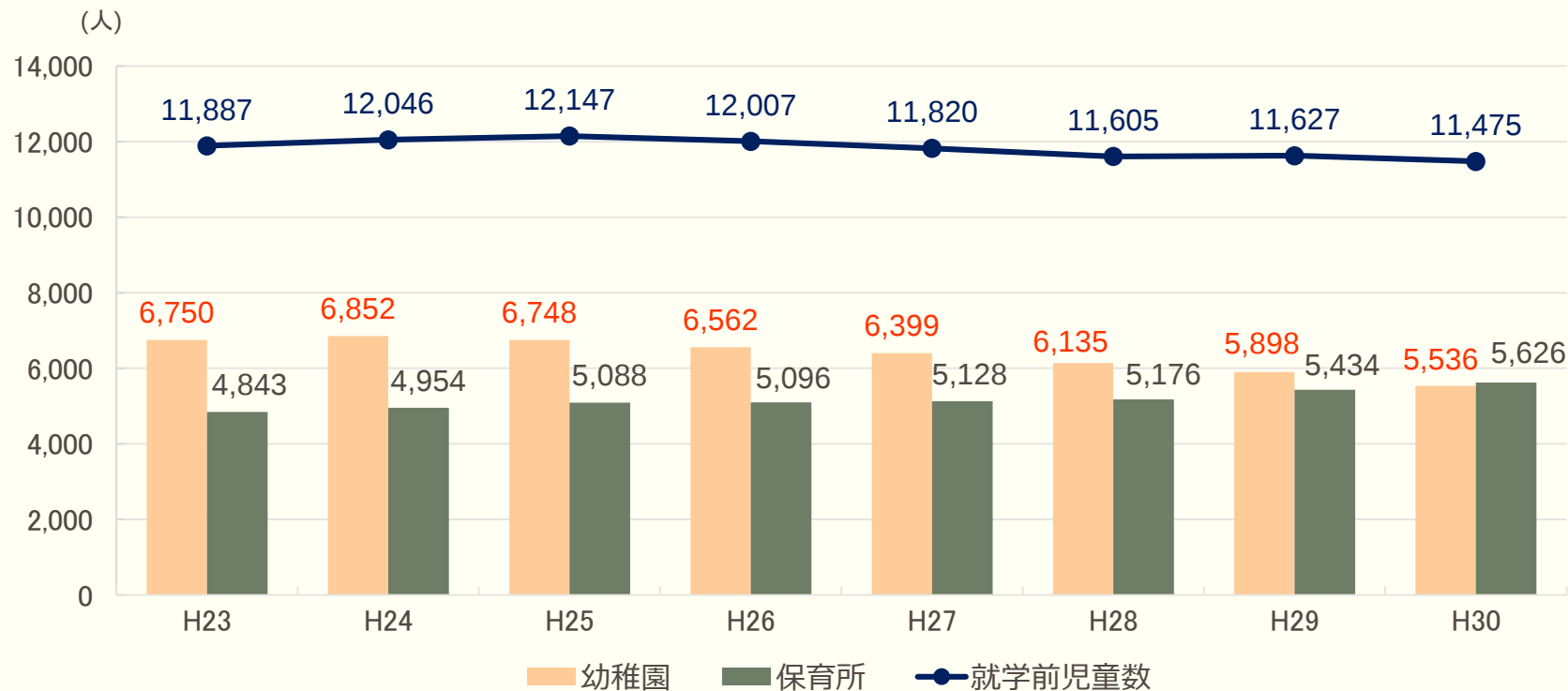


2 学校の状況

③ 幼稚園の就園数、保育所の入所数

就学前の子どもの人口は、減少傾向となっていますが、女性の就業状況の変化等により、幼稚園の就園数が減少している一方で、保育所の入所数は、増加しています。

就学前人口（3～5歳児）・就園数・入所数の推移（高松市）

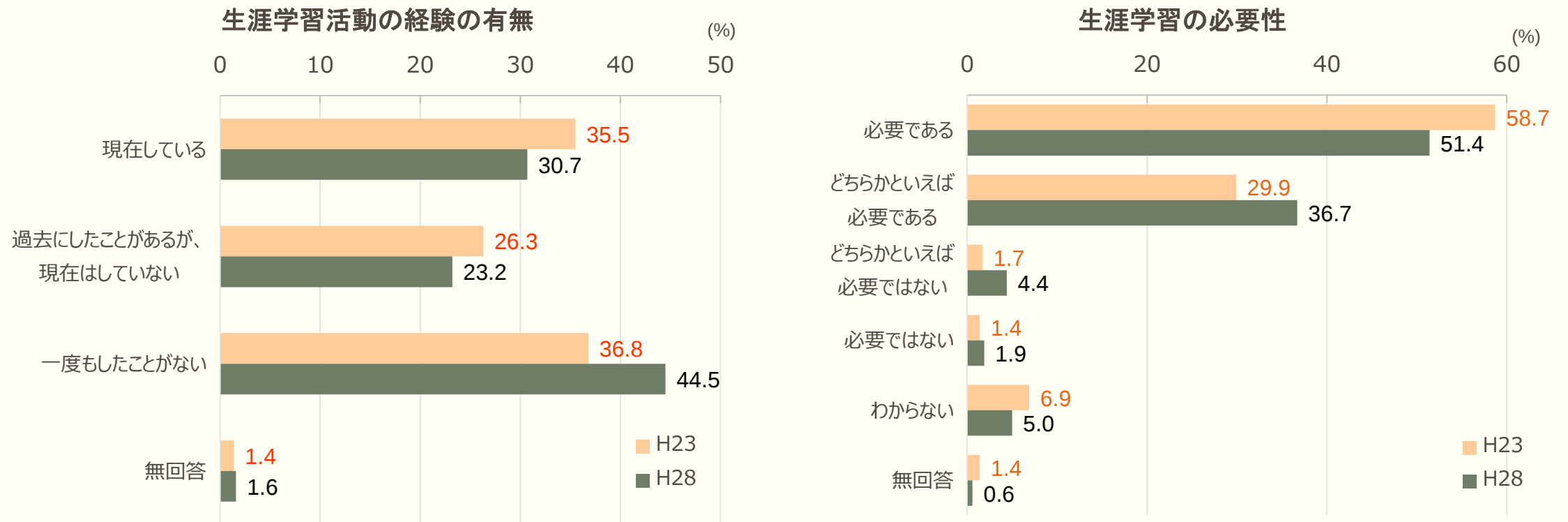


3 生涯学習の状況

① 生涯学習活動等

生涯学習について「現在している」、「過去にしたことがある」を合わせると、約5割の人が生涯学習の経験があると回答しましたが、23年度調査よりも減少しています。

一方、「生涯学習が必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた割合は、ほとんど変わらず、約9割となっており、生涯学習の必要性に係る市民の意識はかなり高いといえます。



「高松市生涯学習市民意識アンケート調査」

3 生涯学習の状況

② 地域や社会での生涯学習の活用状況

「生涯学習で学んだことをいかしたいと思うがいかせていない」と回答した人の割合が最も多くなっています。

